



令和7年 1月発行

中濃県事務所 振興防災課 振興防災係

家庭教育担当:塚原

〒501-3756 美濃市生櫛 1612-2

TEL: 0575-33-4011 (内線210)

関市立 安桜小学校 親子防災教室

～災害時に直面する避難所生活について学ぼう～

関市立安桜小学校では、11月30日(土)の地域参観日に5年生親子対象の「親子防災教室」が開催されましたのでご紹介します。

【開催の目的】

安桜小学校5年生は、総合的な学習の時間に「防災教育」に取り組み、「災害時に命をつなぐためには、どうしたらよいだろう」をテーマに探究活動をしています。これまでも親子一緒に、通学路安全マップを作成したり、避難の時のマイタイムラインを考えたりしてきました。

今回は、災害時に直面する避難所生活について親子で学べるように計画しました。



【当日の様子】



始めの会では、お世話になる講師の先生方の紹介がありました。学校運営協議会(さくらっぱーず)、安桜まちづくり協議会、関市役所危機管理課、せき防災の会、武芸川防災士会、自衛隊の皆様方など、多くの方が関わってこの日の親子防災教室が開催されました。

【① 避難袋・防災グッズのコーナー】



防災士の栗山さんから、「とにかく今準備できることから始めよう」と、避難袋や防災グッズ、家庭での備蓄品についてお話を聞きました。

【② 応急手当のコーナー】



武芸川防災士会の皆さんから、応急手当の仕方について学びました。ハンカチやネクタイ、ビニール袋を使って、親子で応急手当を体験しました。

【③ 耐震のコーナー】



【④ 避難所（仕切り・仮設トイレ）のコーナー】



せき防災の会の朝倉さんから家具の固定や耐震について、関市危機管理課の皆さんから避難所のパーティションや簡易トイレの作り方を学びました。その後、実際に親子で、パーティションや簡易トイレを組み立て、体育館の中に設置してみました。

【⑤ 煙道体験・ロープワークのコーナー】



煙道体験を始めてされた保護者の方は、その視界の悪さに驚いてみえました。

災害時に命綱ともなるロープワークでは、自衛隊の方に、実際に手を取って教えてもらう姿が見られました。

【参加者の感想】

- 防災グッズは、命を守るだけでなく、避難場所でいつものような生活に少しでも近づくためのものだと知りました。家に何が準備してあるか、家族で確認する良い機会になりました。(児童)
- 自分の命をつなぐためには、日々の生活が大切なことが分かりました。日頃から、避難バックの準備や家具の固定など、最低限の対策をしておきたいです。いざとなったら、自分の命は自分で守れるように、そして家族の命も守れるようにしたいです。(児童)
- 災害をニュースで見るたびに、備えの見直しや対応を考えますが、普段から意識していなかったことに気付かされました。今回は災害に対する意識を家族で高めることができました。(保護者)
- こんなに煙の中が見えにくくて、姿勢を屈めて避難することの大変さを実感しました。実際に想像するだけで怖かったです。親も学ぶ機会をいただけて、本当にありがたかったです。(保護者)

【主催者の感想】

今回の親子防災教室は、お話を聞いたり、映像を見たり、体験を通して学んだりしたことで、具体的に災害時の生活や状況の把握ができました。また、親子で学習したことで、家に帰ってから話題が広がり、防災意識が高まったと感じています。



【取材を終えて】

安桜小学校の親子防災教室には、市役所や自衛隊の方々はもちろんのこと、多くの地域の方々も講師として参加されました。子どもだけではなく親子の学びも、地域の方々に支えられていることを実感しました。

安桜小学校の
マスコットキャラクター
「さくらっぱ」

郡上市 幼児教育センター やまびこ園 親子で手 My 味噌づくり

～食について学び、自分だけの味噌を作ろう！～

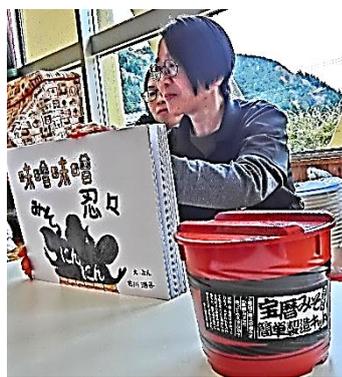
郡上市幼児教育センター「やまびこ園」では、11月20日(水)に、年長児の親子を対象にした家庭教育学級「親子で手 My 味噌づくり」が開催されましたのでご紹介します。

【開催の目的】

「親子で食べ物を一から育てて、食べ物を大切にする心を育みたい」という思いから、何か食育活動ができないかと考えていた時に、この地域にはお味噌屋さんがあることに気づきました。そこで、地元のお味噌屋さんへ相談したところ、「地元の保育園でこそ味噌づくりがしたかったのです！」と快諾していただき、今回の開催に至りました。

大豆から味噌になるまでの過程を学び、実際に作るという体験を通すことで、“食べ物に感謝する気持ち・大切にする心”を親子で育てていただきたいという願いのもと、「親子で My 味噌づくり」を企画しました。

【当日の様子】



講師は、大和地域のお味噌屋さんである「畑中商店」の畑中美里さんです。手作りの紙芝居を使って、子どもたちにお味噌の秘密をわかりやすく教えていただきました。



園の先生方が「お米さん」と「お豆さん」に扮して、味噌作りのしくみについての劇を演じられました。わかりやすく、子どもたちにも保護者にも大好評でした。



「手についている菌や各家の空気中にある菌がすべて違うため、出来上がる味噌はどれひとつとっても同じ味噌はありません。今日親子で作った味噌も、世界でたったひとつの味噌です。」講師の畑中さんの言葉です。

親子で、煮豆とこうじと塩と水を混ぜて、お団子を作って容器に隙間なくつめていきます。子どもたちは「アンパンチ！」と団子になった味噌にパンチをしながら容器に味噌を詰めていきました。

【参加者の感想】

- 昔は各家庭で味噌を作っていました。今はそれを見ることもないので、今回は貴重な体験をさせていただきました。味噌がどうやって作られるのかよくわかりました。親子で、直接こうじに触れて香りをかいだり、こねたりといい経験ができました。1年たたないと食べられないそうなので、それまで大切に育てます。
- 子どもと一緒に作った味噌が1年後に食べられるなんて、タイムカプセル感があってワクワクしてきます。その時に子どもと一緒に作った思い出を話しながら食べることを、今から楽しみにしています。
- 大豆とこうじと塩と水で味噌が作れることを、親子で知ることができました。一緒に材料を混ぜて、こねて団子を作って、その楽しさを十分に感じる事ができました。1年後に My 味噌を味わって食べるのが楽しみです。うちの子は、味噌ラーメンを作りたいそうです。

【主催者の感想】

味噌作りは初めてというご家庭が多かったですが、粘土遊び感覚でできる「こうじみそ」作りだったため、子ども達は率先して塩や糶を混ぜたり、煮豆の触感を楽しんだりしながら作業していました。「これは豆だよ」と話すと、「お豆がおみそになるの〜?」とびっくりする子もいました。

いつも自分たちが何気なく食べている味噌がどのようにしてできるのかを知ることができたと思います。今回作った味噌はこれから一年かけて完成するので、食べるのはまだまだ先になりますが、それぞれのご家庭で自分だけの味噌を大切に育てていただきたいと思います。

【取材を終えて】

やまびこ園ではこの他にも、家庭教育学級の親子活動として、「親子 T シャツづくり」や「親子で左官体験」など楽しい活動がいっぱいです。

今後も、家庭教育学級の様々な活動を通して、親子の絆や親同士のコミュニケーションをさらに深めていただきたいと思います。

美濃市 デイサービス にじむすび



企業内家庭教育研修



～おもてなしの心を大切にして接するために～

美濃市にある「デイサービスにじむすび」では、11月1日(金)、「介護職員のための接遇」をテーマに、企業内家庭教育研修を開催されましたのでご紹介します。

【開催の目的】

「デイサービスにじむすび」は、重度の障がいがありながら自宅で生活してみえる方や、加齢により身体や様々な機能が低下された方が通所してみえる施設です。

介護の世界は、多くの方々の絆や信頼関係で成り立っています。職員が利用者さんやその家族と、今後も気持ちのよい関係を結んでいけるように今回の研修会を開催しました。

【当日の様子】

<講師> 中部学院大学 シティカレッジ
講師 清水 洋子 氏

<研修名> 「介護職員のための接遇」
～おもてなしの心を大切にして接するために～

<研修内容>

- 1 介護職員の基本姿勢
 - ① 挨拶 ②表情 ③身だしなみ ④態度 ⑤言葉遣い
- 2 良い接遇が良い人間関係をつくりあげる
- 3 接遇に必要な要素「人間性」+「仕事の能力」
- 4 自分がそうしてほしいように他人に接することがおもてなしの極意
- 5 最も大切なおもてなしは、臨機応変な個別的対応



【参加者の感想】

- 「第一印象の出会いの七秒が信頼関係を左右する」という言葉が、目からウロコでした。介護者としての接遇を研修して、あらためて、ふれあいとおもてなしの心をもって利用者様と接していくことの大切さを学びました。
- とても声のきれいな先生で、電話の対応ひとつとっても、とても考えさせられました。私も、明日からすぐに実践してみよう！と思うことがたくさんあった研修会でした。

【取材を終えて】

「にじむすび」では、1月に今年度2回目の企業内家庭教育研修を計画してみえます。

研修を通じて、施設を利用される方々との信頼関係をより一層深めていただくとともに、各々のご家庭内でも、是非生かしていただけることを願っています。